

テサロニケー 5:23-24 「霊と心と体の健康」

「どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように。あなたがたをお招きになった方は、真実で、必ずそのとおりにしてくださいます」

わたしたちはみな、生きづらさ、というものを感じながら、生きております。

そうではあっても、わたしたちの心が元気であり、わたしたちの体が元気であるうちは、大丈夫でありましょう。

けれども、ひとたび心が弱り果て、ひとたび体が弱り果てたとき、わたしたちは、もうこれ以上、生きることが出来ないと思う程に、苦しきをおぼえることがございます。

そのようなわたしたちに、今日、福音が告げられております。神が、わたしたちを、全く聖なる者としてくださる、という約束であります。

この、全く聖なる者としてくださる、ということの内実が、今日わたしたちが読んだ聖書において、このように表現されておりました。

「あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように。あなたがたをお招きになった方は、真実で、必ずそのとおりにしてくださいます」

この言葉の主語が、誰であるかに、注意いたしましょう。この約束の主語は、わたしたちではなく、神です。神が、神の御心として、わたしたちを全く聖なるものとしてくださる、ということです。これは、わたしたちが、何か自分の信心や努力によって聖なるものになる、ということではありません。神が、わ

わたしたちを聖なるものとしてくださる、ということでもあります。

そうして、全く聖なるものとされるとは、どういうことであるのか。いまお読みした聖書において、明らかにせられています。全く聖なるものとされるとは、わたしたちの全存在、わたしたちの霊と、わたしたちの心と、わたしたちの体が、まったくすこやかなものとされる、ということでもあります。

わたしたちの霊とは、何でありましょうか。

霊とは、わたしたちが、神と関わりを持つために備えられている機能であります。霊は、わたしたちが、時間と空間を超えて、神と交わりを持つことが出来るようにさせる働きであります。

わたしたちの心とは、何でありましょうか。

心とは、わたしたちが、人と人との関わりを持つために備えられている機能であります。心には、思い、意志、記憶、それに、喜び、怒り、悲しみ、楽しみ、平安、不安、恐れといった感情の働きがございます。

わたしたちの体とは、何でありましょうか。

体とは、わたしたちが、自然との関わりを持つために備えられている機能であります。体には、目、耳、鼻、口、手、足といった器官があって、これによりわたしたちは、見たり、聞いたり、味わったり、感じたり、動かしたり、歩いたり、走ったりすることができます。

これら、霊と心と体と、三つが合わさって、わたしたち人間という存在が成り立っております。

問題は、わたしたちが、自分の存在に、いつも何かしら欠けをおぼえている、ということでもあります。

体がすこやかである、ということは、なんと難しいことでありましょうか。わたしたちは、さまざまな病気によって、痛みや苦しみをおぼえております。さらにまた、目、耳、鼻、口、手、足といった器官に問題が起きて、見ることができない、聞くことができない、かくごとができない、味がわからない、手を動かせない、歩くことができない、ということがございます。

また、心がすこやかである、ということは、なんと難しいことでありましょうか。心には、思い、意志、記憶がございます。わたしたちは、時に、思いが乱れる、という経験をする場合がございます。わたしたちは、意志が弱る、意志がくじける、意志が折れる、意志が定まらない、という経験をする場合がございます。わたしたちは、記憶が薄れる、記憶が飛ぶ、記憶がなくなってしまう、という経験をする場合がございます。わたしたちは、怒りの感情、悲しみの感情、不安の感情、恐れに感情に囚われてしまう、支配されてしまう、という経験をする場合がございます。

しかし、わたしたちは、喜びたいと思います。わたしたちは、このような現状に置かれてはおりますが、平和の神は、わたしたちを全く聖なるものとしてくださる、と約束されております。すなわち、わたしたちの霊と心と体とが、何一つ欠けたところのないものとして守られる、という約束であります。

わたしたちの霊と心と体とは、どのようにして、守られることができるのでしょうか。

それは、第一のものを第一とすることによって、すなわち、わたしたちが、霊によって歩むことによって、であります。

いったい、わたしたちは、自分の思い通りにものごとが行かない、ということがございます。自分の思い通りにならないときに、わたしたちは、生きにくさを感じて、もがき苦しみます。

この「自分の思い」というものが、何であるか、ということに注意いたしましょう。わたしたちが、これが自分だ、と思い込んでいるところの「自分の思い」

というものは、そのほとんどが、体と心とによって、出来上がっているものです。

すなわち、わたしたちが、体によって、見たり聞いたり感じたりするところのもの。わたしたちが、心によって喜んだり怒ったり悩んだり恐れたりするところのもの。わたしたちが、記憶から引き出したり、思いの中で想像を膨らませたりしたもの。これらが渾然一体となって、「自分の思い」というものが、出来上がっているのです。

わたしたちの人生は、この「自分の思い」というものに、まったく支配されてしまっております。そうして、「自分の思い」の通りにならないとき、わたしたちは、途端に行き詰まりを感じてしまうのです。

しかし、わたしたちには、体を超えた次元、心を超えた次元であるところの、霊の次元が開かれていることを、おぼえましょう。

わたしたちには、体と心が合わさって出来上がっているところの「自分の思い」というものがあります。その一方で、わたしたちには、わたしたちの霊の中に示されているところの「神からの思い」というものがございます。

いったい、わたしたちの霊の中には、聖霊が宿っておられます。パウロは、「神の霊が、あなたがたのうちに宿っている」（ローマ 8:9）と、明らかに述べております。この聖霊は、わたしたちが主イエスキリストを救い主と信じたときに、めぐみによって授けられたところの、生ける神の御霊であります。

主イエスキリストは、この聖霊を通して、神の御心を、わたしたちのうちに、深く示してくださいます。これこそが、わたしたちの内に、深く、静かに、語りかけるところの、「神からの思い」であります。

わたしたちは、物事が「自分の思い」通りに行かないとき、いたく失望いたします。さらに、絶望いたします。さらに、自暴自棄になったりいたします。

そのようなときにこそ、わたしたちは、わたしたちのうちに、深く、静かに語りかけるところの「神からの思い」に、耳を傾けなければなりません。それこそは、主イエスキリストが、聖霊を通して、わたしたちの霊のうちに示してくださるところの、神の御心であります。

ここに、「自分の思い」と「神からの思い」とを区別する必要が生じます。

「自分の思い」と「神からの思い」との際立った違いは、何でありましょうか。

第一に、「自分の思い」は、見えるもの、感じるもの、確かめることのできるものに、わたしたちの関心を向けさせます。これに対して「神からの思い」は、わたしたちを、見ずして、ただ信仰によって歩むように、導きます。

第二に、「自分の思い」は、自分自身に、わたしたちの関心を向けさせます。これに対して「神からの思い」は、わたしたちが、ただひたすら主イエスキリストを見つめて歩むように、導きます。

第三に、「自分の思い」は、人生の安心の基盤を、自分自身に置くようにさせます。これに対して「神からの思い」は、わたしたちが、自分ではなくキリストにのみ望みを置くように、導きます。

わたしたちの体には、欠けがあるのでありましょう。わたしたちの心には、欠けがあるのでありましょう。わたしたちの体と心とが合わさって出来上がっているところの「自分の思い」は、わたしたちをいたく失望させるのでありましょう。

しかし、わたしたちは、体だけの存在ではありません。わたしたちは、心だけの存在ではありません。わたしたちには、さらに高い、開かれた次元、霊の機能が備えられております。わたしたちの霊のうちに、神の御霊である聖霊が宿っておられます。主イエスキリストは、この聖霊を通して、神の御心を、わたしたちのうちに深く、静かに示してくださり、わたしたちが「自分の思い」によってではなく、「神からの思い」によって、すなわち、神の御心に従って歩むようにと、導き給います。

わたしたちが、御霊の導きに従って歩むとき、わたしたちは、見るところによらずして、ただ、信仰によって歩むようにされていきます。

わたしたちが、御霊の導きに従って歩むとき、わたしたちは、自分自身を見るのではなくして、ただ、主イエスキリストを見つめて歩むようにされていきます。

わたしたちが、御霊の導きに従って歩むとき、わたしたちは、自分自身に望みを置くのではなくして、ただ、主イエスキリストに望みを置いて歩むようにされていきます。

このようにして第一のものを第一とするとき、何が起こるのでしょうか？

主イエスキリストが、聖霊により、わたしたちの霊を通して、わたしたちの心をも、統べ治めてくださいます。主イエスキリストが、聖霊により、わたしたちの霊を通して、わたしたちの体をも、統べ治めてくださいます。このようにして、わたしたちは、霊と心と体とを、守っていただくことができるのです。

第一のものを第一とするとき、それは、心を切り離して、捨ててしまうことではありません。第一のものを第一とするとき、それは、体を切り離して、捨ててしまうことではありません。

聖書は何と言っているでございましょうか。「主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださる」と約束されております。

ここに、主イエスキリストが再びこられる、再臨の日の希望が示されております。わたしたちは今日、体にさまざまな欠けを持って、生きております。わたしたちは今日、心にさまざまな欠けを持って、生きております。そのような欠けを持ちながらも、御霊に従って歩みたいと、切に願っております。

しかし、主イエスキリストが再び来たり給うとき、わたしたちは、新しくされます。わたしたちの霊ばかりでなく、わたしたちの心もまた、新しくされ、わ

わたしたちの体もまた、新しくされ、わたしたちが、主の御目にかなって、ひとつの欠けもないところの、まったき存在に変えられます。

パウロは、この希望について、こう述べております。主イエスキリストが再びこられるとき、合図のラッパが鳴り響きます。「ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます」(コリントー 15:52)

今日、わたしたちの体には、欠けがあり、問題があります。それは、わたしたちが負うようにと与えられた、小さな十字架であります。

今日、わたしたちの心には、欠けがあり、問題があります。それは、わたしたちが負うようにと与えられた、小さな十字架であります。

今日、わたしたちの霊には、主イエスキリストが聖霊によって示したもうところの「神からの思い」が与えられており、わたしたちは、御霊の導きに従って生きたいと願っております。

これが、わたしたちの歩みです。それは、御霊に導かれて、十字架の道を歩むことであります。

しかし、この十字架の道は、復活の栄光へ続いている道です。わたしたちが、体の問題から、完全に解放される時。わたしたちが、心の問題から、完全に解放される時。すなわち、主イエスキリストが、再び来たり給うて、わたしたちがまったく贖なわれ、復活させられる時。その時にむかって、わたしたちの道は、ひた走って参ります。

それは、確かな道であります。なぜなら、このように約束されているからです。

「あなたがたをお招きになった方は、真実で、必ずそのとおりにしてくださいます」

この約束を握りしめて、お祈りいたしましょう。

祈り

聖なる御父。あなたは、わたしたちを十字架の道へと、お招きになりました。わたしたちは、わたしたちの体という、小さな十字架を負って、歩んでおります。わたしたちは、わたしたちの心という、小さな十字架を負って、歩んでおります。

そのようなわたしたちに対して、あなたが今日、霊による導きを与えてくださることを、心から感謝いたします。

わたしたちが主イエスキリストの十字架による救いを信じて、祈ったとき、御父よ、あなたとわたしたちとの間にあった隔ての中垣が取り除かれ、神の御霊であるところの聖霊が、わたしたちのうちにおいでくださり、わたしたちのうちに親しく臨んでくださり、わたしたちの霊のうちに、聖霊がお宿りくださったことを、心から感謝いたします。

どうか、わたしたちが、「自分の思い」を置いて、聖霊が示したもうところの「神からの思い」に従って、生きることができるようにしてください。

どうか、わたしたちが、見るところによらずして、信仰によって、生きることができますように。

どうか、わたしたちが、自分を見るのでなくして、ひたすら主イエスキリストを見つめることができますように。

どうか、わたしたちが、自分に望みを置くのでなくして、主イエスキリストに望みを置くことができますように。

わたしたちの心と体は、今は不完全な状態に置かれております。しかし、主イエスキリストが再び来たり給うとき、わたしたちは、まったく贖なわれ、復活させられ、まったき心と、まったき体とが授けられることを、信じて、待ち望みます。

どうか、その栄光の日に向かって、わたしたちが、おのれの小さな十字架の道を、ひた走ることができるようにしてください。

わたしたちの主イエスキリストの御名によってお祈りいたします。

アーメン